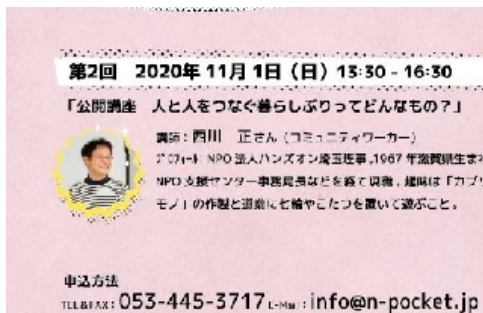


公開講座「人と人をつなぐ暮らしぶりってどんなもの？」

令和2年11月1日(日)、浜松市南区振興課主催で、「認定NPO法人浜松NPOネットワークセンター」(通称:エヌポケット)さんが中心となって企画された公開講座「人と人をつなぐ暮らしぶりってどんなもの？」を聴講しに、浜松市南区にある新橋協働センターに行ってきました。

講師の先生はコミュニティワーカーの西川正さん。特定非営利活動法人ハンズオン埼玉の理事を務められ、「おとうさんのヤキイモタイム」キャンペーンをはじめ、東北福島から埼玉への避難者に向けた月刊誌『福玉便り』の編集など、行政・企業を巻き込んだ市民参加型のまちづくりのプロデュースに関わる一方で、まちづくりや子育て支援にかかわる研修などで講師やファシリテーターとして活動されている方です。
※ファシリテーター:会議などの場で、参加者に発言を促したり話の流れをまとめたりする人



公開講座「人と人をつなぐ暮らしぶりってどんなもの？」

講演会のテーマ「コロナ禍でじっと我慢の『新しい生活様式』という暮らし方は、人を分断する危険性もある一方、不要なものを減らし生活に調和をもたらし断捨離も可能にするということで、このステイホームの暮らしぶりを見つめ、自分と社会のつながりや孤立、孤独の問題を考えてみる」という文面に強い興味を覚えたため、お話を伺いにいったところでした。

先生の開口一番、「今は新型コロナでソーシャルディスタンスということが言われ、密閉・密集・密接の3密を避けることが提唱されていますが、私が今までやってきたことはいかに3密の状態を意図的に作っていくかということでした。」というお言葉がとても印象的でした。

そして、全体的なお話の内容もむしろコロナ終息後を見据えて、その後どうやって人の和を取り戻していくか？という方向のお話がメインで、未来に向けたとても前向きな提案をたくさんいただきました。



参加者同士の親睦を深めるミニゲームも

そもそも現代の私達は、家族も大家族が少なくなって核家族化が進み、ご近所付き合いもどんどん減っていき、より孤立化が進んでいる時代に暮らしているといえるでしょう。

社会制度も、そのような状況を受けてサービス産業に頼り、なんでもお金で解決ができるようになった一方…人と人のつながりが生まれにくい社会になってきているのが現状です。

そういった現状を変えるために、心のありようとしての“あそび(=ひま、隙間、間柄)”を持つことの価値を提唱している先生のお話はとても魅力的なもので、一例として示してくださった取組の中から特に面白いと思ったものを少しご紹介したいと思います。

「おとうさんのヤキイモタイム」

このイベントは、育児参加や地域参加をしたいと思っても、なかなかそのきっかけが持てない子育て中のお父さんに、地域とつながり子育てをする楽しさを味わってもらうための企画で、火があって、食べて、笑う。ただそれだけのことですが、みんなで焚き火の用意をして火おこしをし、協力して試行錯誤しながら



コロナ過ということでズームでの参加者も

お芋を焼く。すると不思議とそこにコミュニケーションが生まれ、お互いの会話が円滑になるのだそうです。

「人はなぜか火を見ると語ってしまう。」

「食べている時はココロが無防備になって垣根が低くなる。」

これは過去に行われた「ヤキイモタイム」に参加をした方の感想だそうです、なるほど！単純なようで深いものがありました。

「トークフォークダンス」

子どもと大人が輪を作って向かい合い、様々なお題に対して1対1で自分の考えを1分間ずつ話します。その後フォークダンスのように相手を変え、たくさんの人達と会話をしていくセッションです。普段は接点の少ない子どもと大人が出会い、お互いを身近に感じ多様な価値観を知る良い機会となるのだそうで、これも非常に面白い企画だと思って傾聴させていただきました。

最初は「昨日の夜なにを食べましたか。」などという簡単な問いから始まるのですが、だんだん佳境に入ってくると…子どもの方には「大人に対して不満に思ってることを話してください。」とか、大人の方には「あなたの初恋の時の話をしてください。」などと突っ込んだ質問をぶつけていきます。

すると子どもも大人も夢中になって自分の思っていることをしゃべるようになるのだそうで、これは本当に面白いアイデアだと思いました。

ある地区で開催されたトークフォークダンスで、終わった後に子どもの書いた感想を聞かせてもらいました。

「普段偉そうにしている大人もいろいろ悩んだりしていることがわかった。」

「大人の人達の経験を聞いて、自分ももっと自由にしていいたと思った。」

など、世代間のギャップが埋まるような良いコミュニケーションができていたことが伺えるようなコメントです。きっと大人の側にも素晴らしい学びがあったに違いありません。

私も、どこかの場でこのような試みを行ってみたいと強く想いました。

以上、このような取組の内容を交えながら、いろいろとコミュニケーションの大事さについてお話しいただいた講演会だったのですが、終始一貫していたのは先生の「ゆるさ」と「遊び心」だったように感じました。

みんなの心をゆるめて笑顔にするための試みを、主催者が肩肘張って緊張して行ったのだとしたら、当たり前ですが良い結果を得ることはできません。もちろん失敗する時もあるでしょうが、「失敗も含めて楽しむぐらいの余裕が大切。」と西川先生はおっしゃいます。もう少し時間が経てばコロナの混乱も収まるでしょうから、その時にはぜひ自分達も楽しみながら新しいことにチャレンジしたいと思います。

最後に、この素晴らしい講座を企画してくださった「エヌポケット」のスタッフの方達に深く御礼を申し上げます。エヌポケットさんは「こうなったらいいな。」という市民の夢や思いを「つなぎ・しらべ・しらせ・ささえ・そだてる」ための市民による共同事務所・シンクタンクとして、さまざまな活動を行ってくださっている団体で、次はぜひエヌポケットさんそのものの活動も取材させていただいて、この場で皆様にご紹介ができればと思っています。合掌

取材：浜松南部・湖西地区担当 生きがい特派員 丸山敬